

デーヴォ ガイド



2024.5.13-19

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

LTG ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



16:15 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが七日間ティルツァで王となった。そのとき、兵はペリシテ人のギベトンに対して陣を敷いていた。

16:16 陣を敷いていたこの兵は、「ジムリが謀反を起こして王を打ち殺した」と言われるのを聞いた。すると、全イスラエルはその日、その陣営で軍の長オムリをイスラエルの王とした。

16:17 オムリは全イスラエルとともにギベトンから上って来て、ティルツァを包囲した。

16:18 ジムリは町が攻め取られるのを見ると、王宮の高殿に入り、自ら王宮に火を放って死んだ。

16:19 これは、彼が罪を犯して【主】の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩んだその罪のゆえであり、イスラエルに罪を犯させた彼の罪のゆえであった。

16:20 ジムリについてのその他の事柄、彼が企てた謀反、それは『イスラエルの王の歴史誌』に確かに記されている。

16:21 当時、イスラエルの民は二派に分裂していた。民の半分はギナテの子ティブニに従って彼を王にしようとし、もう半分はオムリに従った。

16:22 オムリに従った民は、ギナテの子ティブニに従った民より強かったので、ティブニが死ぬとオムリが王となった。

16:23 ユダの王アサの第三十一年に、オムリはイスラエルの王となり、十二年間、王であった。六年間はティルツァで王であった。

16:24 彼は銀二タラントでシメメルからサマリアの山を買い、その山に町を建て、彼が建

てたこの町の名を、その山の持ち主であったシメメルの名にちなんでサマリアと呼んだ。

16:25 オムリは【主】の目に悪であることを行い、彼以前のだれよりも悪いことをした。

16:26 彼はネバテの子ヤロブアムのすべての道に歩み、イスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、

【主】の怒りを引き起こした。

16:27 オムリが行ったその他の事柄、彼が立てた功績、それは『イスラエルの王の歴史誌』に確かに記されている。

16:28 オムリは先祖とともに眠りにつき、サマリアに葬られた。彼の子アハブが代わって王となった。

北王国イスラエルの王は目まぐるしく変わりました。ソロモンの後、ヤロブアムによって国は分裂し、その後王は、ナダブ、バシヤ、エラ、ジムリ、オムリという順です。謀反につぐ謀反によるものです。

それゆえ誰が王であり、また誰についてゆくかとう人間の争いが無意味であることが分ります。ただ主のみこころを行う者でなければ、みな同じく悲惨な結末になるのです。

私たちも同じで、誰につくか誰と親しいかということは優先順位ではなく、主のみこころを行うというところに将来があるのです。

主は悪い者を懲らすために、悪い者を用います。それはその後の歴史と預言を見ても分ります。イスラエルまたユダの反逆ゆえに彼らは攻撃を受けますが、その攻撃をした国々もまた滅ぼされるのです。それは神の摂理です。

現代でも、争いによって誰かを正したつもりの人が、神様から離れているというのを見ることがあります。主に用いられたという自己満足がそこにあります。しかし私たちは心の動機を大切にしましょう。主に喜ばれる思いと方法で、謙遜に、

聖霊に導かれながら建德的に正していきたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 14日 火曜

列王 I



16:29 オムリの子アハブは、ユダの王アサの第三十八年に、イスラエルの王となった。オムリの子アハブはサマリアで二十二年間、イスラエルの王であった。

16:30 オムリの子アハブは、彼以前のどれよりも【主】の目に悪であることを行った。

16:31 彼にとっては、ネバテの子ヤロブアムの罪のうちを歩むことは軽いことであった。それどころか彼は、シドン人の王エテバルの娘イゼベルを妻とし、行ってバアルに仕え、それを拝んだ。

16:32 さらに彼は、サマリアに建てたバアルの神殿に、バアルのために祭壇を築いた。

16:33 アハブはアシェラ像も造った。こうしてアハブは、彼以前の、イスラエルのすべての王たちにもまして、ますますイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こすようなことを行った。

16:34 彼の時代に、ベテル人ヒエルがエリコを再建した。彼は、その礎を据えたとき長子アピラムを失い、門を建てたとき末の子セグブを失った。ヌンの子ヨシュアを通して語られた【主】のことばのとおりであった。

アハブという最悪の王がいかに誕生したが、記されています。それは彼1代だけのことではなく、祖先からの罪と不信仰が連続と続いているのだとわかります。ヤロブアムに始まった不信仰と反逆はその子孫に受け継がれました。またオムリが王となった経緯も、主の御心というのではなく、単なる力関係であったことがわかります。

エリコはヨシュアが攻め勝った、かつては異教と罪の町でしたが、主はその町を再建するものは呪われると言われました。ヒエルはこれを無視して再建しようとして、その通りに呪われました。それでも

アハブはそこから学ぶことをせず、主に従わないままだったのです。

もしも周囲が神様に十分従っていないなら、それに同化してしまわないで、自分は従う者でありましょう。周りに流されることなく、むしろ周りから主のみわざを見出して、主の御心を知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 15日 水曜

列王 I

17:1 ギルアデの住民であるティシュベ人エリヤはアハブに言った。「私が仕えているイスラエルの神、【主】は生きておられる。私のことばによるのでなければ、ここ数年の間、露も降りず、雨も降らない。」

17:2 それから、エリヤに次のような【主】のことばがあった。

17:3 「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠せ。

17:4 あなたはその川の水を飲むことになる。わたしは鳥に、そこであなたを養うように命じた。」

17:5 そこでエリヤは行って、【主】のことばどおりにした。彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。

17:6 何羽かの鳥が、朝、彼のところにパンと肉を、また夕方にパンと肉を運んで来た。彼はその川から水を飲んだ。

17:7 しかし、しばらくすると、その川が涸れた。その地方に雨が降らなかったからである。

17:8 すると、彼に次のような【主】のことばがあった。

17:9 「さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしはその一人のやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

17:10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、薪を拾い集めている一人のやもめがいた。そこで、エリヤは彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」

17:11 彼女が取りに行こうとすると、エリヤ



は彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」

17:12 彼女は答えた。「あなたの神、【主】は生きておられます。私には焼いたパンはありません。ただ、かめの中に一握りの粉と、壺の中にほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本の薪を集め、帰って行って、私と息子のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。その後で、あなたとあなたの子どものために作りなさい。」

17:14 イスラエルの神、【主】が、こう言われるからです。『【主】が地の上に雨を降らせる日まで、そのかめの粉は尽きず、その壺の油はなくなるらない。』」

17:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。

17:16 エリヤを通して言われた【主】のことばのとおり、かめの粉は尽きず、壺の油はなくならなかった。

歴代の王たちが偶像に仕えた要因として、他国の同盟と豊穡のためということがあります。バアルは豊穡の神です。

まことの神、主はバアルがただの偶像であることを明かすために、預言者エリヤを用いますが、彼自身も信仰に立っていないければ意味がありません。そこで主は彼を鳥や貧しい家族によって養ったのです。主の証人は主の恵みによって生きる覚悟が必要です。

後に起こるバアル信仰との対決は信仰による戦いであり、主はそのためにエリヤの信仰を成長させたのです。彼は主のことばに従うことによって、体験し成長したのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 16日 木曜

列王 I

17:17 これらのことの後、この家の女主人の息子が病気になった。その子の病気は非常に重くなり、ついに息を引き取った。

17:18 彼女はエリヤに言った。「神の人よ、あなたはいったい私に何をしようとされるのですか。あなたは私の咎を思い起こさせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。」

17:19 彼は「あなたの息子を渡しなさい」と彼女に言って、その子を彼女の懐から受け取り、彼が泊まっていた屋上の部屋に抱えて上がり、その子を自分の寝床の上に寝かせた。

17:20 彼は【主】に叫んで祈った。「私の神、【主】よ。私が世話になっている、このやもめにさえもわざわざいを下して、彼女の息子を死なせるのですか。」

17:21 そして、彼は三度その子の上に身を伏せて、【主】に叫んで祈った。「私の神、【主】よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに戻してください。」

17:22 【主】はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちがその子のうちに戻り、その子は生き返った。

17:23 エリヤはその子を抱いて、屋上の部屋から家の中に下りて、その子の母親に渡した。エリヤは言った。「ご覧なさい。あなたの息子は生きています。」

17:24 その女はエリヤに言った。「今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある【主】のことが真実であることを知りました。」

今度の試練はあらかじめ主から聞いていたものではなく、いわば突発的なものでした。そのような試



練はさらに辛いもので信仰が試されるのですが、これまで主のみわざを体験したエリヤは、主に食いついて祈ります。このように主の訓練と成長にはさらなる段階があります。辛い出来事も主からの試練で成長のためと信じましょう。

イスラエル歴代の王たちは主に背いて、その身にも王国にも苦難をもたらしましたが、それは主の警告の通りでした。ただし主は民を十把一絡げにして滅ぼすという方ではありません。一人一人の人格や状況や人生をいつくしむ方です。また各々の信仰をごらんになって報いてくださるかたでもあります。

王国は偶像邪教によって大いに乱れていましたが、主の使命に生きる預言者がおり、またそのような主の働き人を助ける家族がいたとうことは、反逆の歴史の中にも主のみわざが、信仰の深い部分で流れていたことの証です。

旧約の時代においても勝利は信仰によるものです。しかし民族的には信仰ではなく反逆となり、滅ぼされるのですが、その回復と救いのためにはイエス様の十字架と復活を待たねばなりませんでした。私たちもときには主に背いてしまう者ですが、そういうときには十字架のもとに行きましょう。そこでエリヤやこの婦人のようにになれるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17日 金曜

列王 I

18:1 かなりの日数を経て、三年目に、次のような【主】のことばがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地の上に雨を降らせよう。」

18:2 そこで、エリヤはアハブに会いに出かけた。そのころ、サマリアでは飢饉がひどかった。

18:3 アハブは宮廷長官オバデヤを呼び寄せた。オバデヤは【主】を深く恐れていた。

18:4 かつてイゼベルが【主】の預言者たちを殺したときに、オバデヤは百人の預言者たちを救い出し、五十人ずつ洞穴の中にかくまい、パンと水で彼らを養ったのである。

18:5 アハブはオバデヤに言った。「国内のすべての水の泉や、すべての川に行ってみよ。馬とらばを生かしておく草が見つかり、家畜を絶やさないですむかもしれない。」

18:6 二人はこの国を分けて巡り歩くことにし、アハブは一人で一つの道を行き、オバデヤは一人で別の道を行った。

18:7 オバデヤがその道にいたところ、エリヤが彼に会いに来た。オバデヤにはそれがエリヤだと分かったので、ひれ伏して言った。「あなたは私の主人エリヤではありませんか。」

18:8 エリヤは彼に答えた。「そうです。行って、エリヤがここにいと、あなたの主人に言いなさい。」

18:9 すると、オバデヤは言った。「私にどんな罪があると言うのですか。あなたがこのしもべをアハブの手に渡し、殺そうとされるとは。」

18:10 あなたの神、【主】は生きておられま



す。私の主人があなたを捜すために人を遣わさなかった民や王国は一つもありません。その王国や民が、あなたははいないと言うと、主人は彼らに、あなたが見つからないという誓いをさせています。

18:11 今、あなたは『行って、エリヤがここにいとあなたの主人に言え』と言われま

す。

18:12 私があなたから離れて行っている間に、【主】の霊はあなたを私の知らないところに連れて行くでしょう。私はアハブに知らせに行きますが、あなたを見つけられなければ、彼は私を殺すでしょう。しもべは子どものころから【主】を恐れています。

18:13 あなたには、イゼベルが【主】の預言者たちを殺したとき、私のしたことが知らされていないのですか。私は【主】の預言者百人を五十人ずつ洞穴に隠し、パンと水で彼らを養ったのです。

18:14 今、あなたは『行って、エリヤがここにいとあなたの主人に言え』と言われま

す。彼は私を殺すでしょう。」

18:15 すると、エリヤは言った。「私が仕えている万軍の【主】は生きておられます。私は必ず、今日、アハブの前に出ます。」

このオバデヤはオバデヤ書を残した預言者とは別人です。彼の態度を賞賛することもできますが、批判する人もあるでしょう。彼は百人の（正しい）預言者を「かくまい、パンと水で彼らを養い」命を救ったのです。それは命がけの行動でした。

一方、預言者エリヤのことをアハブ王に告げことは、自分が殺されるだろうとそれを拒みます。エリヤが信仰の確信を持って主の前に行くのとは

対照的です。エリヤは勇敢ですが、一方オバデヤを危険にさらすことには無頓着のようです。

このように人にはそれぞれの使命や賜物があって、皆が同じではありません。私たちは主のみわざを求めのみです。

こ後オバデヤは命を省みずエリヤのことをアハブ王に告げます。主が心に働かれるとき、人は内側から変えられ、自発的に喜んで自分を犠牲にもできます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 18日 土曜

列王 I



18:16 オバデヤは行ってアハブに会い、彼に告げたので、アハブはエリヤに会うためにやって来た。

18:17 アハブがエリヤを見るやいなや、アハブは彼に言った。「おまえか、イスラエルにわざわざもたらす者は。」

18:18 エリヤは言った。「私はイスラエルにわざわざもたらしてはいない。あなたとあなたの父の家こそ、そうだ。現に、あなたがたは【主】の命令を捨て、あなたはバアルの神々に従っている。

18:19 今、人を遣わして、カルメル山の私のところに、全イスラエル、ならびにイゼベルの食卓に着く、四百五十人のバアルの預言者と四百人のアシェラの預言者を集めなさい。」

18:20 そこで、アハブはイスラエルのすべての人々に使者を遣わして、預言者たちをカルメル山に集めた。

18:21 エリヤは皆の前に進み出て言った。「おまえたちは、いつまで、どっちつかずによるめいているのか。もし【主】が神であれば、主に従い、もしバアルが神であれば、バアルに従え。」しかし、民は一言も彼に答えなかった。

18:22 そこで、エリヤは民に向かって言った。「私一人が【主】の預言者として残っている。バアルの預言者は四百五十人だ。

18:23 私たちのために、彼らに二頭の雄牛を用意させよ。彼らに、自分たちで一頭の雄牛を選び、それを切り裂いて薪の上に載せるようにさせよ。火をつけてはならない。私は、もう一頭の雄牛を同じようにし、薪の上に載

せて、火をつけずにおく。

18:24 おまえたちは自分たちの神の名を呼べ。私は【主】の名を呼ぶ。そのとき、火をもって答える神、その方が神である。」民はみな答えて、「それがよい」と言った。

18:25 エリヤはバアルの預言者たちに言った。「おまえたちで一頭の雄牛を選び、おまえたちのほうから、まず始めよ。人数が多いのだから。おまえたちの神の名を呼べ。ただし、火をつけてはならない。」

18:26 そこで彼らは、与えられた雄牛を取って、それを整え、朝から真昼までバアルの名を呼んだ。「バアルよ、私たちに答えてください。」しかし何の声もなく、答える者もなかった。そこで彼らは、自分たちが造った祭壇のあたりで踊り回った。

18:27 真昼になると、エリヤは彼らを嘲って言った。「もっと大声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席を外しているか、旅に出ているのだろう。もしかすると寝ているのかもしれないから、起こしたらよいだろう。」

18:28 彼らはますます大声で叫び、彼らの慣わしによって、剣や槍で、血を流すまで自分たちの身を傷つけた。

18:29 このようにして、昼も過ぎ、ささげ物を献げる時まで騒ぎ立てたが、何の声もなく、答える者もなく、注目する者もなかった。

「どっちつかず」の民に、エリヤは「火をもって答える神」が本物であると宣言します。敵は圧倒的に多く、アハブ王とイゼベル王妃の後ろ盾があり、圧倒的なパフォーマンスを披露します。人が見るとエリヤの敗北は決定的のようです。しかし神と偶像の違いは歴然です。

火は当時の人にとっては大きな力でしょうが、現代は火よりも心のいやしや関係の和解など、重要課題があります。神ではないものを神のように頼っている人々に、素晴らしいわざをもって臨んでくださる神を示すことができます。現代のエリヤになりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18:30 エリヤが民全体に「私のそばに近寄りなさい」と言ったので、民はみな彼に近寄って来た。彼は、壊れていた【主】の祭壇を築き直した。

18:31 エリヤは、【主】がかつて「あなたの名はイスラエルとなる」と言われたヤコブの子たちの部族の数にしたがって、十二の石を取った。

18:32 その石で、彼は【主】の御名によって一つの祭壇を築き、その祭壇の周りに、ニセアの種が入るほどの溝を掘った。

18:33 それから彼は薪を並べ、一頭の雄牛を切り裂いて薪の上に載せ、

18:34 「四つのかめに水を満たし、この全焼のささげ物と薪の上に注げ」と命じた。それから「もう一度それをせよ」と言ったので、彼らはもう一度そうした。さらに、彼が「三度目をせよ」と言ったので、彼らは三度目をした。

18:35 水は祭壇の周りに流れ出した。彼は溝にも水を満たした。

18:36 ささげ物を献げるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、【主】よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのものであり、あなたのおことばによって私がこれらすべてのことを行ったということが、今日、明らかになりますように。

18:37 私に教えてください。【主】よ、私に教えてください。そうすればこの民は、【主】よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻してくださったことを知るでしょう。」

18:38 すると、【主】の火が降り、全焼のささげ物と薪と石と土を焼き尽くし、溝の水もなめ尽くした。

18:39 民はみな、これを見てひれ伏し、「【主】こそ神です。【主】こそ神です」と言った。

18:40 そこでエリヤは彼らに命じた。「バアルの預言者たちを捕らえよ。一人も逃すな。」彼らがバアルの預言者たちを捕らえると、エリヤは彼らをキシオン川に連れて下り、そこで彼らを殺した。

18:41 エリヤはアハブに言った。「上って行って、食べたり飲んだりしなさい。激しい大雨の音がするから。」

18:42 そこで、アハブは食べたり飲んだりするために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔を膝の間にうずめた。

18:43 彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海の方をよく見なさい。」若い者は上って、見たが、「何もありません」と言った。するとエリヤは「もう一度、上りなさい」と言って、それを七回繰り返した。

18:44 七回目に若い者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上っています」と言った。エリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」

18:45 しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。アハブは車に乗って、イズレエルへ行った。

18:46 【主】の手がエリヤの上を下ったので、彼は裾をたくし上げて、イズレエルの入り口までアハブの前を走って行った。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

